

古代と近世で道路は国家によってどのように位置づけられたのか

(1) 古代の官道

古代は平城京（のち平安京）と各地域を結ぶ東海道や東山道、都と大宰府を結ぶ〔¹ 〕などの七道が都から放射状に設定されていた。また、一定の距離ごとに〔² 〕が設置され、人や馬が常備され、公用の役人が利用した。都と国府を結び、そこから伝路が分岐して〔³ 〕と結ばれており、地方から都へ〔⁴ 〕を運搬する運脚を務める農民が通行した。

律令制では中央から各国に〔⁵ 〕が国司として派遣され、中央政府の指示の下、〔³ 〕を拠点とする郡司を指揮して地方支配にあたる、中央集権的な体制がとられていた。各国に展開する国司に対して中央政府から命令・指示が紙の文書や〔⁶ 〕に記されて伝えられた。地方から中央に対する上申もまた同じ形で送られた。中央と各国の国府の間でやりとりされるこうした文書や〔⁶ 〕を伝えたルートが官道であった。

(2) 近世の街道

近世は江戸幕府によって五街道が江戸を起点に設定され、また〔⁷ 〕とよばれる主要な街道が全国に設けられていた。

東海道や中山道のように江戸と京都を結ぶもの、江戸と甲府を結ぶ甲州道中、東北を結ぶ奥州道中やそこから分岐して〔⁸ 〕とを結ぶ日光道中など、江戸と政治的に重要な都市や地域を結ぶようにルートが設定されている。

作業 1 『地歴図』 p.110～112を参照し、愛知県から静岡県にかけての東海道のルートを確認しよう。
また、そのルートを現代の国道1号と比較しよう。

作業 2 『地歴図』 p.110～112を参照し、東名高速道路のルートを確認しよう。
また、国道1号との違いをまとめてみよう。

作業 3 近世の街道におけるルート設定の特徴を、現代の道路との共通点に着目してまとめてみよう。

作業 4 古代の官道におけるルート設定の特徴を、現代の道路との共通点に着目してまとめてみよう。

まとめ 古代の官道が衰退したのはなぜかについて考えてみよう。